



警告のニューズレター「角笛」

発行日：2018年4月発行（第96号）

発行：警告の角笛出版

価格：フリーペーパー

角笛 HP: <http://www.geocities.co.jp/Technopolis-Mars/5614/>

【目次】

- ◎巻頭メッセージ：「御国の子らは、外の暗闇に放り出される」 エレミヤ
- ◎時代を悟る「ロックとCCM」 H.F
- ◎お知らせコーナー 「本の紹介」

[巻頭メッセージ]

「御国の子らは、外の暗闇に放り出される」 by エレミヤ

本日は、「御国の子らは、外の暗闇に放り出される」という題でメッセージしたいと思います。クリスチャンが神の民となったとしても、その歩みが正しくないとき、外の暗闇に追い出される、永遠の命も危なくなる、と聖書が警告していることを見ていきたいと思えます。テキストに沿って見ていきます。

<御国の子らであっても外の暗闇に追い出される>

聖書は明らかに御国の子らであっても外の暗闇に追い出されることがあり得ることを警告しています。以下の通りです。

マタイ8:11 あなたがたに言いますが、たくさんの人が東からも西からも来て、天の御国で、アブラハム、イサク、ヤコブといっしょに食卓に着きます。

8:12 しかし、御国の子らは外の暗やみに放

り出され、そこで泣いて歯ぎしりするのです。」

御国の子らとは何でしょうか？どのような人をさす表現なのでしょう？御国 (kingdom) とは、王が統治する国を意味し、ここでは、神が王として支配しておられたイスラエル、ユダの王国をさします。ですので、このことばの意味合いは、神が統治する国、イスラエル、ユダ国に生まれた、育ったといっても全ての人があるまま天の王国に入るわけではなく、逆にその日、逆転現象が起きる、ということ警告して語っているのです。

<新約の王国、神の国とは教会をさす表現>

さて新約においても御国、神の王国は存在します。新約においては、教会が神の王国です。

エペソ5：23 ”なぜなら、キリストは**教会のかしら**であって、ご自身がそのからだの救い主であられるように、夫は妻のかしらであるからです。”

新約の神の王国は教会であり、そのかしら、王はキリストなのです。

「御国の子らは、外の暗闇に放り出される」 by エレミヤ

ですので、「しかし、御国の子らは外の暗やみに放り出され、そこで泣いて歯ぎしりするのです。」とのことばは、新約の神の王国の子らであるクリスチャンへの警告であるとも理解できるのです。さて、上記マタイ書と同じ記述がルカ書にも記載されています。ルカ 13：23～30 この箇所を順に見ていきましょう。

13:23 すると、「主よ。救われる者は少ないのですか。」と言う人があった。イエスは、人々に言われた。

13:24 「努力して狭い門からは入りなさい。なぜなら、あなたがたに言いますが、はいろうとしても、はいれなくなる人が多いのですから。

救われる者は少ないのですか？という彼の質問に対して、主イエスは「いやそんなことはない。誰でも彼でも一度信じれば決して救いから漏れることはない」などと肯定的に答えることはありませんでした。むしろ、彼の「救われるものは少ない」との表現を肯定して、「努力して狭い門からはいる」ことを語り、さらに強調するように、「入ろうとしても、入れなくなる人が多い」ことを語ったのです。そのようなわけで、我々は聖書で言う救い、ということばに関して勘違いをせず、聖書的な理解を持たなければなりません。ここでの会話の内容をまとめると以下のようになるでしょうか：

1. 救われるものは少ない。教会でキリストを信じる者は多いとしても、その後、神の前に最後まで、正しくとどまり、救いに至るものは少ない。

2. クリスチャン人生において「努力して狭い門から入る」ことが大事。もし間違えた教師、教理に惑わされ、広い門、広い道に至るなら、我々は永遠の命から外される。具体的には「一度キリストを信じれば救いから漏れるこ

とはない」などの広い門、広い道に惑わされた人は滅びの広い門へ入り、永遠の命から遠ざけられる。

3. このように主の警告のことばがあるのに、実際は天の御国に「入ろうとしても、入れなくなる人が多い」

このような我々クリスチャンの常識を覆すようなことがここでは書かれています。そして、その後の記述もこの説明を補足する内容となっています。

13:25 家の主人が、立ち上がって、戸をしめてしまってからでは、外に立って、『ご主人さま。あけてください。』と言って、戸をいくらたたいても、もう主人は、『あなたがたがどこの者か、私は知らない。』と答えるでしょう。”

ここでは、主人に戸を閉ざされ、締め出されてしまった人々がいます。彼らは、広い門を選び、広い道を選び、結果として天の御国に入れなかったクリスチャンです。ですから、我々は理解しなければなりません。今の時代、我々クリスチャンがどのような教理を選び、どのような教師につき、どのような教団の教理を選択するかは自由ですが、しかし、我々が正しいまっすぐな狭い道、狭い門を選ばないなら、その日、天の御国に入るのは難しい、ということを理解するべきなのです。

天の御国に誰を入れるべきか締め出すのかを決めるのは家の主人である神ご自身です。我々の好みや願いや、要望、勘違いに従ってその戸が開かれるわけではないのです。今の時代において命に至る狭い門、狭い道を選ぶクリスチャンに対してのみ、その狭い戸が開かれるのです。

「御国の子らは、外の暗闇に放り出される」 by エレミヤ

13:26 すると、あなたがたは、こう言い始めるでしょう。『私たちは、ごいっしょに、食べたり飲んだりいたしましたし、私たちの大通りで教えていただきました。』

このイエスの時代の人々はみな、ここに書かれているようにイエスと親しく交わり、また教えを受けました。5000人の給食の時には、多くの群集が食べ飲みし、またイエスの教えを聞いたのです。しかし、このようにイエスと食事をともにしたり、教えを聞いたことがそのまま、彼らが天の御国に入ることを保障はしませんでした。

悲しいかな彼らの多くは、結局はイエスを否定し、十字架につけることに賛成し、自らを滅びに至らせたのです。救いには至らなかったのです。

<たとえの意味合い>

さて、このこと、「食べたり、飲んだり」ということばにはたとえが使われています。食べるとは、聖餐式のパンを食べることに通じ、それは以下のとおり、みことばのパンに通じます。

申命記8：3 「人はパンだけで生きるのではない、人は主の口から出るすべてのもので生きる」

また飲むとは聖餐式のぶどう酒を飲むことに通じ、ぶどう酒は聖霊の型です。また、「私たちの大通りで教えていただきました」とは、毎週の礼拝で、神のことばで教えられる教会のクリスチャンに通じる表現なのです。

すなわち、食べたり、飲んだり、さらに大通りで教えていただく、とはどれも、毎週教会に通い、みことばのパンを食べ、聖霊のぶどう酒を飲み、礼拝で教えられるクリスチャンをさすたとえなのです。

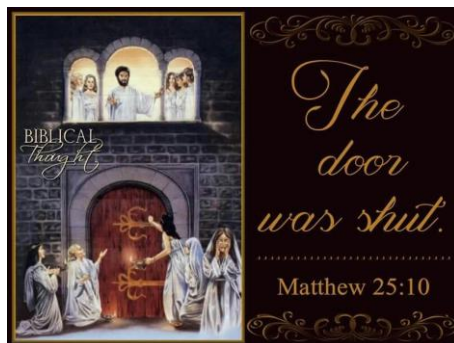
そして、そのような毎週教会に通うクリスチャンであっても彼らが正しい狭い門、狭い道を選ばないなら、その日天の御国に入れず、締め出される可能性がある：これがこの箇所が語ることがらなのです。

13:27 だが、主人はこう言うでしょう。『私はあなたがたがどこの者だか知りません。不正を行なう者たち。みな出て行きなさい。』

さて、毎週教会に通い、み言葉のパンを食べ、聖霊のぶどう酒を受け、聖書の教えを受けていたクリスチャンがなぜ、その日、主人である神ご自身により天国への戸を閉ざされ、追い出され、その上、「私はあなたがたがどこの者だか知りません。」などと言われてしまうのでしょうか？ここにその理由が書かれています。「不正を行なう者たち。」ということばが彼らが拒否される理由です。

<不正とは何か？>

不正とは何でしょうか？不正とはギリシャ語でadikiaと書かれています。このことばは「神の戒め」(dike)と関係があることばです。その意味合いは「神の戒め(dike)を破る、守らない」という意味合いです。ですので、ここで彼らがその主人である神により、天の御国に入ることを拒否されているその理由が明確にわかります。その理由は、彼らが神の戒めを守らない、破るクリスチャンであるからなのです。



ドアは閉ざされた

「御国の子らは、外の暗闇に放り出される」 by エレミヤ

そして彼らがそのように神の戒めを守らないクリスチャン生活を送ってきたその理由も類推できます。その理由は彼らがその教会生活や教団のクリスチャン生活の中で、勘違いした教え、教理を受けてきたからです。すなわち、滅びに至る広い門や広い道の教えを受け、結果として彼らはその日、滅びに入るようになってしまった、ということなのです。

具体的には、「新約の神の民は信仰によって義とされる、だからもう律法にこだわり、守る必要はない、律法を気にする必要はない」、などという誤った教えでしょうか。

＜永遠の命を得るためには神の戒めを行なう必要がある＞

しかし、このような教え、「新約の時代は信仰のみが大事である、律法を守ったり、強調すべきでない」とはまったく誤った教えであり、教理です。なぜなら、主ご自身が永遠の命を得るためには神の戒めを守るよう明言しているからです。以下を見てください。

ルカ10:25 すると、ある律法の専門家が立ち上がり、イエスをためそうとして言った。「先生。何をしたら永遠のいのちを自分のものとして受けることができるでしょうか。」

10:26 イエスは言われた。「律法には、何と書いてありますか。あなたはどの読んでいますか。」

10:27 すると彼は答えて言った。「『心を尽くし、思いを尽くし、力を尽くし、知性を尽くして、あなたの神である主を愛せよ。』また『あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ。』とあります。」

10:28 イエスは言われた。「そのとおりです。それを実行しなさい。そうすれば、いのちを得ます。」

ここで主は永遠の命を得るためには神の律法を行なうこと、それを実行すれば命を得る

ことを語っているのです。ですので、我々が本当に狭い門を通り、狭い道を通って永遠の命を得るつもりがあるなら、神の律法を守ることに力を費やすべきなのです。さらに以下の箇所を見てください。

マタイ 19:16 すると、ひとりの人がイエスのもとに来て言った。「先生。永遠のいのちを得るためには、どんな良いことをしたらよいのでしょうか。」

19:17 イエスは彼に言われた。「なぜ、良いことについて、わたしに尋ねるのですか。良い方は、ひとりだけです。もし、いのちにはいたいと思うなら、戒めを守りなさい。」

19:18 彼は「どの戒めですか。」と言った。そこで、イエスは言われた。「殺してはならない。姦淫してはならない。盗んではならない。偽証をしてはならない。」

19:19 父と母を敬え。あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ。」

ここでも主は永遠の命を得るためにはどうすればよいのか、という質問に対して「もし、いのちにはいたいと思うなら、戒めを守りなさい。」と答えています。具体的には十戒を守ることを勧めているのです。2度同じ質問を受け、2度とも同じように答えているのです。私たちが永遠の命を受けるためには 律法すなわち、神の戒めを守る歩みをするのが必須であることがわかるのです。

神の戒めを忠実に行なっていくことが永遠の命を得る狭い門であり、狭い道なのです。もし惑わされて「今は信仰の時代であり、律法を守ることは不要、気にする必要はない」などとの広い滅びの門を選ぶなら、私たちは神に会うその日、狭い天国の戸へ入ることは難しいでしょう。繰り返していいますが、今の時代にクリスチャンとしてキリストを信じ、教会に通い、聖書の教えを受けることは一つの事ですが、しかし、クリスチャン人生を終えたその日、我々が神の前に受け入れら

「御国の子らは、外の暗闇に放り出される」 by エレミヤ

れ、狭い門、狭い道を通して天国へ入り、救われることはまた別のことなのです。我々が神を信じ、クリスチャン生活を歩みだすなら、それは感謝です。しかし、聖書は全ての信じたクリスチャンがそのまま天の御国に入るとは決して語っていないことを理解すべきです。ある人は狭い門を見出すでしょうが、しかしまた滅びに至る広い門、広い道を選び、救いに到達できないクリスチャンも多いことを聖書は語るのです。そして、主は「救われるものが少ない」ことを決して否定しなかったことを思い起こすべきです。

“ 13:28 神の国にアブラハムやイサクやヤコブや、すべての預言者たちがはいつているのに、あなたがたは外に投げ出されることになったとき、そこで泣き叫んだり、歯ぎしりしたりするのです。”

ここでは旧約の神の民であるイスラエル、ユダの民が神の国に入れず、外に投げ出されることが書かれています。彼らは神の王国の民であり、アブラハムやイサクやヤコブの子孫であり、また聖書も読み、毎週会堂に集うことも行なっていたのですが、結果として神の国に入らず追い出されてしまいました。その理由は彼らが「不正を行なう者たち。」であること、すなわち神の戒めや律法を聞いても行なわない民だったからです。

そしてこの記述は新約のクリスチャンに対しても無縁ではありません。なぜなら、今の時代のクリスチャンも新約のイスラエルとして、アブラハムの信仰の子孫であり、また聖書を読み、毎週教会に通っているからです。そして新約のクリスチャンである我々ももし、神の戒めを行なわないクリスチャン生活を送り、「不正を行なう者たち」であるなら、同じくその日、天の狭い門、狭い戸から追い出されるようになるのです。そして、「外に投げ出されることになったとき、そこで泣き叫んだり、歯ぎしりしたりする」のです。

<終末に毒麦のさばきがある>

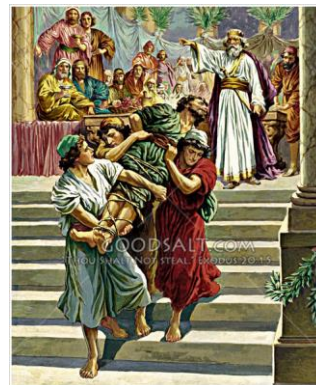
キリストを信じたクリスチャンであっても正しく歩み、狭い命の門を選ばないといずれ、罰や滅びへ入る、と私は語っているのですがこのような教理は聖書的なのでしょうか？考えてみましょう。実は他にも同じような箇所があります。たとえば、聖書には終わりの日に毒麦クリスチャンが裁かれ、火で焼かれることが書かれています。以下のとおりです。

マタイ13:40 ですから、毒麦が集められて火で焼かれるように、この世の終わりにもそのようになります。

13:41 人の子はその御使いたちを遣わします。彼らは、つまずきを与える者や不法を行なう者たちをみな、御国から取り集めて、

13:42 火の燃える炉に投げ込みます。彼らはそこで泣いて歯ぎしりするのです。

麦とか毒麦はパンの原料であり、それはみことばや教理に通じます。毒麦は誤った教え、教理で育つクリスチャンのたとえです。彼らは、誤った教え、神の戒めや教えに逆らう教理を受け入れ、育ちますが、その最後の運命は毒麦として火で焼かれるようになることです。ですので、繰り返しますが、私たちがキリストを信じ、クリスチャン生活を始めることは一つのことですが、しかし、彼らが歩むクリスチャン生活や自ら選んだ道、門により、個々のクリスチャンの運命は異なる、ということが聖書の語っている未来なのです。正しく警告を受けましょう。—以上—



外の暗闇に追い出される

今の時代、キリスト教会では多彩な音楽スタイルで賛美し礼拝しています。伝統的な讚美歌や聖歌を用いている教会もあれば、CCM(現代的キリスト教音楽)で賛美をする教会もあります。CCMとは、ロックやポップスの形でキリスト教信仰を表すポピュラー音楽で、若者に人気があります。アメリカやオーストラリアのメガチャーチはCCMを用いるところが多く、ヒルソング教会は特に有名であり独自にCCMを発信し世界中の教会に影響を与えています。

また、CCMは非常に大きな音楽産業であり、アメリカのグラミー賞においてもCCM部門が5つあります。多くのCDが販売されアメリカでは多い時では年間5000万枚のアルバムが販売されていました。多くのCCMミュージシャンが、コンサートツアーを行っています。

「Christian&Gospel Music Industry Overview」によれば、アメリカでは2014年には1700万枚のアルバムと3147曲が販売されました。アメリカにはCCM専門のラジオ局があり、2億1500万人がCCMを聞いています。また、日本においても、礼拝でCCMを用いる教会も多く、若者伝道のため牧師のロックグループが結成されたりと、CCMは日本の教会にも大きな影響を与えています。

では、世俗的な音楽であるロックとの混合したCCMは良いものなのでしょうか？角笛の記事(角笛80号・2016年12月)でロックの悪魔的な背景とその危険性について、多くの方が警告していることを述べました。しかし、今でもロックの背景にある悪魔的な危険性をどれだけの方が認識できているでしょうか？ロックの特徴はドラムとリズムです。ロックン・ロールのドラムは、ブードゥー教の音楽に由来しています。そしてロック音楽において、その中に多くの悪魔的な印、シンボ

リックをみることができます。このドラムは、聖書の中にある、異教のモレク礼拝の主要な楽器でありました。

レビ記18；21に「あなたの子どもをひとりでも、火の中を通らせて、モレクにささげてはならない。あなたの神の御名を汚してはならない。」とあります。

モレクはアモン人の金属の偶像の神でした。イスラエルの民はエルサレムの町の外にあるベン・ヒノムの谷、トフェテに、モレクの邪悪な偶像を建て、子供たちを火で焼く生贄として捧げたのです。この邪悪なおぞましい礼拝で、焼かれる子供たちの叫び声と共にドラムが演奏されました。このようにドラムは常に異教徒の礼拝に関連し、ブードゥー教、シャーマニズム、魔法、悪魔の儀式で顕著に用いられています。この悪魔礼拝の流れのもとにロックがあるのです。

また、音楽は心身に多大な影響を与えるものであると医学的に解明されています。ドラムビートは催眠的な働きをすることが知られており、音楽は心身をコントロールすることができるのです。悪魔がドラムを用いることの一つの理由は催眠的な作用があることです。ドラムビートにより左右に対称性が失われるため脳内でストレスがかかり、有益なものと同様に有害なものとの見分けが困難となります。そして破壊的なもの有害なものに引き寄せられていく催眠効果があるのです。そしてそのリズムは、肉体的な官能を刺激するよう意図的に設計され中毒性があります。同じくロック音楽は、破壊、反抗、暴力、薬物、性的淫行などを引き起こします。第一ペテロ4：3に「あなたがたは、異邦人がしたいと思っていることを行い、好色、情欲、醉酒、遊興、宴会騒ぎ、忌むべき偶像礼拝などにふけたも

のですが、」とあり、ロックはまさに肉的なもの、異教の人々の音楽です。また、ローマ 8；7～8に「肉の思いは神に対して、反抗するものだからです。それは神の律法には服従しません。いやできないのです。肉にある者は神を喜ばすことはできません。」とあります。ロックのような肉のものと神の霊は相いれません。

第一ペテロ 1；15～16

「あなたがたを召してくださった聖なる方にならって、あなたがた自身も、あらゆる行いにおいて聖なるものとされなさい。それは「わたしが聖であるから、あなたがたも聖でなければならない。」と書いてあるからです。

神様は、私達に世俗の汚れた者ではなく、聖なるものになりなさい、といわれています。では、世俗のロックと混ぜ込んだCCMに聖さがあるのでしょうか？多くのロックミュージシャンは刺青をしており、同じくCCMのミュージシャンの多くも刺青をしています。外見も音楽性も同じで全く見分けが付きません。CCMのドラムビートの音楽に乗り、人々は高音響に揺れ、ジャンプし、叫びます。それは神様への捧げものというよりも陶酔と自分たちの快楽を求めるコンサートです。そこに神様の聖さがあるのでしょうか。

第一ペテロ 4；7で「万物の終わりが近づきました。ですから、祈りのために、心を整え身を慎みなさい」とありますが、世のロックコンサートの乱痴気騒ぎと同じようなCCMのワーシップに聖さや慎みは存在しているのでしょうか？

また、CCMの歌詞に含まれている偽りについて警鐘を鳴らす人々が多くいます。例えばデ

イビット・クラウドDavid CloudはHPサイト「Way of Life Literature」で“CCM Permeated With False Christs and False God”（偽のキリストと偽の神に浸透したCCM）という題でCCMにおける偽りについて警鐘を鳴らしています。また、このサイトでは多くのCCMの例を挙げ、そこに浸透している恐ろしい精神的妥協、異端、背教と、虚偽のキリストについて検証しています。CCMの歌詞のうちに、微量の異端的な教えを混ぜ込んで、キリストではない偽物のキリストをつかませる罠のことが述べられています。

伝道 10；1 死んだハエは、調合した香油を臭くし、発酵させる。

とあります。CCMは甘く肉的なもの、快楽的な自分たちの欲望に都合の良い神のイメージを刷り込めます。香油にハエが入ると香油は異質なものとなるように、賛美に悪魔的なものが入りこみ、偶像礼拝、悪魔礼拝と変質していくのです。御霊によって正しく見分けなければなりません。



CCM

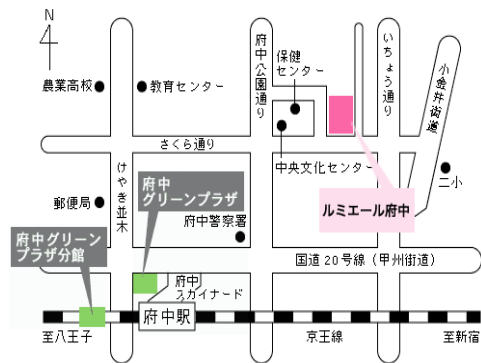
●エレミヤの新刊「天皇家は万世一系のダビデ王朝の末裔である！」



定価:¥1,500+消費税 ※注文を御希望の方は、以下へご連絡下さい。
 警告の角笛出版 tel:042-364-2327 fax:020-4623-5255
 mail:truth216@nifty.com

●レムナントキリスト教会「日曜礼拝」のご案内

曜日/時間:毎週日曜日 午前 10:30-12:30
 午後 14:00-16:00
 場所:東京都京王線府中駅10分、ルミエール(市民会館)
 府中市府中町 2-24 (tel:042-361-4111)
 1Fのエレベーター脇の部屋表示板で、
 「レムナントキリスト教会」の部屋をご確認ください。
 どなたでも来会歓迎、入場無料です。



★教会のHPもあります。

ご興味のある方は、“Yahoo! Japan”で、「府中 レムナントキリスト教会」で検索ください。
 尚、レムナントキリスト教会はプロテスタントの教会です。ものみの塔や統一教会とは関係ありません。

☆クリスチャンの方におすすめのサイト:エレミヤの部屋

<http://www.geocities.co.jp/Technopolis/6810/>

☆クリスチャン向けへのブログサイト:終末の風

<http://whattopics.at.webry.info/>

☆クリスチャンになったばかりの方やノンクリスチャンの方におすすめのサイト:オリーブ&ミルトス

<http://remnantnotudoi.jimdo.com/>

☆ノンクリスチャン向けへのブログサイト:パンの家

<http://87494333.at.webry.info/>